

公表

事業所における自己評価総括表2024

○事業所名	児童デイサービス・イルカ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2024年 12月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2024年 12月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・障害児本人の療育は、もちろんの事、電話や面談を通して子育てにおける悩みなど相談事に対するアドバイスを行っており、手厚い保護者支援を行っているが、皆様に満足して頂きたい。 ・短期間で、子供の変化・成長を感じて喜びの声を頂いている。	・日々の子供の様子を観察したり、送迎時などに保護者と話をすることで課題や問題点を把握し、職員間で情報を共有している。 ・5領域を重視した上での療育を行っている。	・これまでの方向性にそって、保護者と緊密に話をしていく。そして子供本人の成長に寄与し、保護者のサポートも行いながら子供・保護者いずれからも満足して頂けるような支援を行う。
2	・アセスメントを丁寧にとり、家庭の状況もふまえて、それぞれの課題を明らかにし、5領域に基づいた療育を行っている点。	・最低でも必ず半年に1回、保護者から聞き取りを行って計画書を作成しているが、保護者からの要望や変化等により変更があれば随時内容を修正し、適切な目標を定めて療育を行っている。	・徹底的に課題・問題点を明らかにし、何が最善か？また必要時には保護者と一緒に学校とも連携を図り、対応策を考えながら5領域に基づいた支援を行っていく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・共働きの親が多いため、保護者会の開催が出来ていない点。	・母子家庭や父子家庭、また共働きの世帯が多いため、実施することが難しい。	・保護者会という形での開催は難しい状況だが、これまで個別での面談等において家族支援、きょうだい支援を行ってきたので、その点を継続していき、保護者同士の連携もとれるような状況を構築していく。
2	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	・デイサービスの人数等の兼ね合いや重度の児童が多い為外出する機会が少ない状況。	・室内での療育に限らず、出来る限り地域とのふれあいを持てるような時間を設けていく。
3			

公表

事業所における自己評価結果2024

事業所名		児童デイサービス・イルカ		公表日		2025年 1月 18日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・個々の身体状況等に配慮し、パーティション等を利用している。 ・パーティションに関しては万が一倒れてもケガにつながらない物を利用している。	危険認知度の低い子供が多いので、活動中に接触・転倒といった事態が生じないように注意して対応していく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・丁寧に子供達の療育が行えるよう適切な資格を有した常時3~5名の職員を配置している。また全職員が介護ヘルパーの資格を有しているので肢体不自由児にも適切な対応が行う事が出来ている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・ホワイトボードや写真などを利用することで子供達が一日の流れなどが分かりやすく理解できているようにしている。グループごとの活動に分ける事で今、どこで何をするか？明確化出来ている。 ・バリアフリーに関してはストッパーを置く事で床の段差をなくし、車いすやバギーの子供たちでも安全に移動することが出来ている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・日々、清掃を行い消毒も定期的に行っているので清潔を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・重度の児童がパニックを起こした時に個別の場所を使用する事でスムーズな切り替えを促す事が出来ている。その際には管理者もしくは指導員が個別対応を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・全職員が参加し、日々の支援の中で感じた疑問点・問題点・改善点を話し合っているが、電話や一斉メールも活用する事で、しっかり情報共有し業務改善につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価表を用いて保護者のニーズ・意向・希望を把握し、業務改善につなげている。電話や事業所への来所、時には自宅訪問という形でも保護者の意向を把握する場を設けているが、その内容は全職員にも発信している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員は常に話をし緊密な連携をとっており、最終的に管理者も含めた話し合いを行うことで業務改善につなげている。その中で一方通行の話になったり、断定した内容で話を理解しない為にも職員の意見には、しっかり耳を傾け、互いの意見を尊重しながら話し合いを行うことで適切な解決策を導き出している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・保護者とは連絡を取り合い、ご意見・ご希望等を聞いて業務改善には繋げている。	・保護者以外での第三者による外部評価は受けていないので必要に応じて改善していく必要がある。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	・社内において管理者を中心として子供たち1人1人の特性や支援方法に関する研修は定期的に開催しており、外部での研修に関しても積極的に受講し、その情報を共有した上で日々の支援に役立っている。虐待研修等、必須事項に関しては毎年、必ず研修を受講している。	・日程の都合上、すべての研修に参加出来ているわけではなく研修の参加者も限られている面はある。出来る限り、すべての研修に参加し、また受講する職員に関しても、多くの人間が受講する事で各個人間での感じ方の違いを含めて、共有していくことが必要になる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	・事業所の特性、支援の方向性について詳細に示したプログラムを作成し公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	・アセスメントは最低年に1回は必ず見直しを行っており、年度ごとの状況の変化など細かい部分も把握できている。計画書に関しては最低半年に1度、必ず保護者に意見を求め話し合いや事業所もしくは自宅での面談を行った上で支援の方向性・内容を詳細に記した計画書を作成出来ている。	・各保護者とともに毎回、密に話し合いは行っているが事業所もしくは自宅での面談となると、より具体的な状況を把握できる。保護者の意向を尊重しながらも出来る限り、全保護者と直接の面談を行えるようにしたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	・職員間で子供達の成長した点・課題・気づきを話し合う時間を設けている。それを元に管理者とも話し合いを行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	・常に計画書は閲覧できる状態に置いている為、計画に沿った支援を行う事が出来ている。 ・半年に一度という見直しの期間はあるが、それに縛られず、気づき等があれば話し合いを都度行い、保護者にも意見を求めた上で内容を修正している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	・それぞれの家庭の状況や子供達の発達状況、心身の健康状態、行動の特徴など細かく保護者から聞き、通院先・常備薬・アレルギー・日々の注意事項なども把握している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	・保護者からの意見をもとに5領域に沿った支援、本人支援、家庭支援、地域支援をきちんと分けし、具体的な到達目標、支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・活動プログラムに関して、その日のイベントや制作など事前に話し合いの上、役割を決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・季節の行事、誕生日会など年間・月間を通して様々な活動や制作へとつなげる工夫をしている。活動・制作の内容を担当する指導員は毎日変えており、各担当がそれぞれアイデアを出し、日々工夫を凝らしている。 ・必要時、工具や玩具等も購入している。	・集団活動、個別活動いずれも時間もあがるが、特に個別活動では、特定の内容に固執しすぎないよう職員も日々、注意を払う必要はあり。その点は日々の話し合いの中で共有している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	・個々の得意・不得意を把握し、得意な部分はさらに伸ばし、苦手な部分を少しでも克服していく為、その子の特性を活かした個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成し支援を行っている。	

20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・その日のスケジュール・各自の役割・制作や活動内容・重度の子供への対応といった個別の注意点や体調などを共有する話し合いを行い、職員それぞれの得意分野を活かしたチームでの支援を行っている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・その日の反省点や支援における疑問等を話し合い、管理者に意見を求めた上で改善を図ったり、全体で共有しておくべき点については職員へ発信している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々の支援の様子をきちんと記録簿に記載しており、必要時には経過記録にも変化や注意点などを記載している。 ・記録に関して、保護者から不明点等があれば随時相談をお受けし、管理者が個別に説明し理解を頂いている。保護者から頂いた相談についても職員間で共有を図り、支援の内容を検証し改善を図っている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・最低6か月ごとにモニタリングを行い計画書を作成している。希望がある時や本人に変化がある時、また曜日の変更・追加がある時には随時行っている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		・創作活動の時間は毎日、必ず設けており、手先を使った活動や集中力を高めるようにしている。また（余暇）活動を通じて本人の達成感や自己肯定感を高め、本人の出来ることを増やし、自立を促すなど複数を組み合わせた支援を行っている。	・地域交流の機会の提供は多くないので、今後増やしていければと考えている。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・子供たちの特性や気持ちを最優先にし、活動内容を子供達が選択できるように声掛けや工夫を行っている。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・担当する常勤職員が事前に管理者や他の指導員と打ち合わせを行いサービス担当者会議に参画している。 ・会議で得た内容については職員間で共有を行い、よりよい支援へと繋げている。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・日々、学校や相談支援専門員、他の事業所と連携をとりながら支援を行っている。 ・必要に応じて学校との連携会議にも参加し、統一した支援を行っている。	
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・常に連携を働きかけ、情報の共有を行っている。 ・個別の子供に対して、必要時には学校の担任の先生と電話等で情報交換等を行っている。	
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・就学前から移動支援を利用している子供がデイサービスを利用する流れになる為、カンファレンスを通じて情報共有を図る事が出来ている。	

関係機関 関 連 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	・ 重度の児童に関しては何度か行っており、必要時には他の事業所に移行しやすい様に積極的に連携している。 ・ なお弊社は放課後等デイサービス以外にもいくつかの障害福祉サービスを提供している為、基本的にそのままサービスは移行されるので支援内容等の情報は問題なく共有出来ているが新たに生活介護や就労支援等に進む場合において必要時にはすべての移行会議に参加し、情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	・ 関わる研修には積極的に参加しており、必要時には各支援センターとカンファレンスを行い、連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	・ 時には地域の公園に行き、地域の障害のない子供達と触れ合う機会を設けている。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	・ 出来る限り参加するようにしている。	・ 可能な限り参加するようにしているが、十分ではない為、今後の課題となる。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・ 記録簿や送迎時だけでなく連絡ノートや電話・メールを活用して家庭内やデイサービスでの様子を共有している。 ・ その中で保護者から悩み・相談があれば随時お受けし、管理者が自宅もしくは事業所にて個別に相談の場を作っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・ 連絡ノートの利用、電話や面談といった相談の場を作る事で家庭内で子供とどのように関われば良いか？アドバイスを随時行っており、情報提供を随時行っています。	
保 護 者 へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・ 契約の際に契約書と重要事項説明書をワンセットで渡しており、必ず説明を行い、理解および署名・捺印を頂いています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・ アセスメントで子供の特性を把握し、定期的に保護者と子供自身の希望は何か？困り事は何か？自分の目標を達成するために何をすべきかなど確認の上、子供第一でサービスを提供している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	・ 必ず内容を確認頂いた上で同意および署名・捺印を頂いています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・ 連絡ノートや送迎時に相談を受けた場合、必ず管理者が対応している。電話やメールだけでなく、ご要望に応じて事務所に来所して頂き管理者との面談の場も設けて必要な助言を行っている。なお、その際には弊社の療育の考え・方針を改めてお伝えし、認識を一致させた上で、ご家庭と学校と弊社が同じ方向を向いて療育を行っていくよう話をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・ 現状、実施できていない。 ・ 共働きや小さい子供がいる家庭が多く、親御さんの負担を増やしてしまう為、保護者会の開催等は難しい状況である。

の 説 明 等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・苦情をお受けする事はありませんが、万が一苦情が発生した際には必ず管理者が直接対応させて頂き、保護者と話をさせて頂く。その後職員全員にその内容を発信し、改善策などを共有することで迅速かつ適切な対応を行っている。 ・市や国の苦情窓口の連絡先も契約時にお伝えしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	・毎月1回、ホームページにて情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・契約時に説明しており、職員にも個人情報の取り扱いには十分注意するように徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・持病や障害等を抱えた保護者の方もおられるので、各ご家庭に合った方法で連絡をとりあうように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・現時点では難しい状況である為、実施できていない。 ・今後、改善して行ければと考えている。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・いずれにおいてもマニュアルを策定・配布し、周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・地震、火事、水害を想定した避難訓練を月に1回行っている。 ・業務継続計画を策定しているが、それ以外にも『津波発生時における避難確保計画』『洪水時の避難確保計画』を策定しており、年に1回『避難訓練実施結果報告書』を必ず広島市に提出している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	・アセスメントの際、必ず確認している。 ・変化や追加などがある際にも随時確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・面談や契約時に詳細なリストを提出して頂いている。また万が一アレルギーが生じた際の対応・連絡先などを職員が共有し、それに基づいて慎重に対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・安全計画を策定しており、それに準じた安全管理の元、支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・安全計画をホームページに掲載し、周知を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・必ず作成し、全職員へ共有出来る体制をとっている。 ・再発防止の為、管理者から注意・発信も行っています。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・毎年、必ず研修に参加し、その内容を職員と共有する機会を設けている。 ・社内勉強会や総会、その他、必要な時にも周知・注意をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	・現在、身体拘束を行う可能性がある利用者はいないが、やむを得ず身体拘束を行う可能性がある場合には、その態様・時間・利用者の心身の状況・緊急やむを得ない理由やその他の必要な事項を記録することを組織として定めている。それをふまえた上で計画にもきちんと位置づけ、保護者同意の元、適切に対応することとしている。	